

「差別はどこからやってくる？」 — 社会の中から？ ひとりひとりの中から？ —

新型コロナウイルスが最初に中国で流行したことから、中国人だけでなく日本人や韓国人を含むアジア人への人種差別がアメリカやヨーロッパで起きていると報道されています。

日本の中でもコロナ関連の差別報道が多く見られますが、LGBTQ・ジェンダー・障害者・在日外国人など、ほかにも多様な差別が今も存在しています。第37回信州自遊塾講座は、総合的な「差別」について考えを深めようと企画しました。差別のこと、いっしょに考えてみませんか？

7/18 (日)

13:00開場 13:30~16:00

松本市中央公民館Mウイング3-1・3-2



畑谷史代 (はたやふみよ)

長野市生まれ。信濃毎日新聞編集局文化部次長。1993年信濃毎日新聞入社。報道部、文化部、論説委員室を経て現職。

連載「介護のあした」1999年取材班で新聞協会賞。(04年~05年)ハンセン病問題の連載「柵の垣根」で新聞労連ジャーナリスト大賞特別賞など。



清水 稔 (しみずみのる)

長野県の教員。2001年ハンセン病回復者で作家の伊波敏男さんとの出会いを機に、療養所の方々の交流を始める。県教育委員会では主に人権教育担当の指導主事。長野市立三本柳小学校長を最後に退職。2019年長野県同和教育推進協議会の事務局長に就任。

藤本 豊 (ふじもとゆたか)

東京都立中部総合精神保健福祉センター、北療育医療センターなどに心理職として勤務。兼任講師として立教大学で精神保健学、明治大学で障害児教育論を担当。共著で「地域臨床心理学」「幻聴の世界」「私たちの津久井やまゆり園事件」「健康医療心理学」など。

コーディネーター **松本 猛**(まつもとたけし)

- ・信州自遊塾塾長・ちひろ美術館常任顧問
- ・作家・美術評論家・横浜美術大学客員教授

信州自遊塾とは、だれもが参加できる、3.11以降の生き方を学び考える場です。信州を愛する人の中には、それぞれの分野ですばらしい行動を行い、ものを考え、作りだしている人がたくさんいます。「信州自遊塾」はこうした人々のネットワークをつくり、講座・エクスカーション(小旅行講座)などで新しい人間の幸せを、まじめに楽しく、考え、学ぶ場です。活動はホームページでお知らせしています。

※講座のレポートもホームページで公開中！

信州自遊塾

検索



【第1部】

三人の専門家に聴いてみよう！

ジャーナリズム：畑谷史代

「現代社会の多様な差別
— 新聞記者の立場から —」

教育：清水 稔

「差別を解消するための取り組み
— 教育現場から —」

心理学：藤本 豊

「人はなぜ差別をするのか？
— 臨床心理の現場から —」

【第2部】

パネルディスカッション

— みんなで考えよう！ —

差別された体験や、日ごろ感じているいろんな差別のこと、みんな考えてみよう！

～これからの人間の生き方を考えよう～

信州自遊塾

<http://www.jiyujuku.org/>